

# 『北島康介と平井コーチとオセロと福田元首相』の関係



みなさん、TVでのオリンピック観戦お疲れ様でした。野口みずき選手、残念でしたね。まさか走る前にリタイヤとはまったく予想外な展開でした。牛が主人を振り落とすのではなく、主人の意志が強すぎて、牛(体)が悲鳴を上げてその場にへたり込んでしまったという感じでしょうか？人一倍意志が強く、どんな練習も淡々とこなす強靱な精神力が備わっている、それゆえに発生してしまった残念なアクシデントという気がします。的確なアドバイスを遠慮なく瞬時に出来るコーチという存在が不在だったのかもしれませんが。

そういう意味では水泳の北島康介選手はコーチとの二人三脚で勝ち取った金メダルといえるのではないのでしょうか？北島選手の水中でのキック力はものすごいらしく、まさに親から授かった天性の才能なのですが、それを中学時代から見抜いていた平井コーチの眼力は素晴らしく、しかしその強すぎる膝の腱こそが諸刃の剣となり、故障の原因となっていたため、上半身も鍛え上げてバランスよく泳げるように独特の練習で指導をして頭角を現してきたそうです。

しかし上半身が強くなればなっただ、がむしゃらに我力で泳いでしまい、後半ばてて記録が伸びないという状態になってしまう為、平井コーチの理想的平泳ぎは欧米の腕力とスピードを主体にした平泳ぎではなく、ゆったりと伸びのあるフォームで可能な限りストローク数を減らすというものだったそうです。

そしてここからが北島選手の凄いところですが、オリンピックの100メートル平泳ぎ本番でいきなり、今まで前半19ストロークで入っていたところを突然16ストロークに変更し、そして見事に金メダルを獲得してしまいました。インタビューのときに『なんもいえねえ〜!!』と感極まっていたのは、無謀と思われるこの作戦を信じて挑戦して結果を残したことによる感無量感ではないのでしょうか？

野球でもそうですがピッチャーが伸びのある生きた球を投げるときはリラックスして腕がよく伸びている時と野球解説者がよく言っていますが、オリンピックの舞台で日本で投げている時のように伸びのあるボールを投げているピッチャーが何人いたでしょうか？みんな雰囲気飲み込まれて、ピンチのときは我力で、腕力で投げているのではないのでしょうか？北島選手は前半リードされても決してあわてて腕力に頼ることなく、冷静にコーチと自分の信念を守って泳いだといえます。当の平井コーチですら『今さらだけど、何であんなに度胸よく言ったとおりにやってくれるんですかね〜?』と驚いていたらしいのですが、素直さ、大胆さ、勝負師魂、練習から来る確信、そして何よりもコーチへの信頼感だったのではないのでしょうか？

これから景気が後退してくるといわれております。あわててあっちこっち飛び回って、新規取引先を増やし、目の前の仕事を確保することも必要とは思いますが、自分たちの信念を信じて、あわてず、いい社員を採用して、みんなで育てて、研修も行って、一緒に汗をかくて、ごみも拾って、100キロも歩いて、工場も常に4Sを心がけて、安全を第1に、心ある道を歩む経営をすることが、実は神様に頼んでオセロ盤の四隅に先に駒を置かせてもらうようなものではないかと思えます。オセロ盤の真ん中であせて我力の出し合いで消耗減速していくよりも、将来を見据えて四隅に駒を置く、これはまさに北島—平井流ストローク減少泳法であり、将来に必ず効果を現す経営ではないかと思えます！というわたくし、羽原コーチの言うことが信じられるかどうかは、皆さんの日々の努力と私の日々の信用にかかっております！！(もちろん私は将来に確信を持っておりますが！！！！)

『もうなんもいえね〜』というコーチと選手の協働の最高の境地か、『あなたとは違うんです!』というお互いに他人事の最低の境地か、10年後のテクア技研から『どうすんだよ!!』という声をかけられているような気がします。ともに心ある道を歩みましょう！

感謝 羽原篤史



この度の水害、如何でしたか。新聞やTVの報道を見て案じております。お母さんや、皆様もご無事のことと思います。排水、消毒等々大変なことが続きます。気をつけてお過ごし下さい。水害といえば、50年ほど昔になりますが、伊勢湾台風後、大型トラックで水の中、機会のOHで走り回ったことを思い出します。元気に、復興に励まれるようお祈りします。敬具

P.S.

末吉さんから水害のお見舞いの葉書を頂きました。末吉さんと聞いてわかる人はテクア歴10年以上のベテランさんばかりだと思います。

以前アマノ樹さんで支店長をされていたらっしゃった方で、私もよく現場に同行させていただき毎回、「遅い!!」と喋られていました(笑)。本当によき思い出であり、仕事の師匠でもあった方なのですが、その方が退職されて10年以上たった今でもテクアのことに気にかけていただいている、葉書まで送っていただいたことが本当にうれしくて、うれしくて、ここまで心ある道を歩んできてよかったと

「もうなんもいえねえ〜」という気持ちです。